

議会だより

えりも

No.4

平成25年2月1日



一般
質問

写真：成人式

12月定例町議会

12月20日に定例町議会が開催され、条例、予算の補正など、提出された議案をすべて原案通り可決しました。また、5名の議員による11件の一般質問も行われました。

条例

暴力団排除条例が

制定されました

補正予算

ハザードマップ

作成業務委託費

136万円

平成23年4月1日に北海道暴力団排除条例が施行されています。道条例は、暴力団側と住民側の双方に禁止行為を定め、飲食店などの事業者が反社会的勢力と関係を絶つための後ろ盾となっていますが、市町村が公共事業から暴力団を排除する根拠となる具体的な条項はないことなどから、各自自治体が条例の整備を進めていました。

当初予算で49万円（一部修正のみ）を計上していましたが、道の津波浸水予測が発表された事などにより、ハザードマップの抜本改訂を行う事となった為の追加計上です。各戸配布は4月を予定しています。

国民健康保険

特別会計繰出金

1500万円

道条例に加え、町条例が制定されたことで、地域社会から暴力団を排除する包囲網が強化されたこととなります。

高額医療費共同拠出金並びに、保険財政共同安定化事業拠出金の算定方法の変更（前期高齢者医療費分の加味等）による国保会計支出の増額を一般会計からの繰り入れで補うものです。

主な内容として暴力団の公共工事からの排除、学校周辺での暴力団事務所開設の禁止、暴力団への利益供与の禁止などが定められ、違反者には勧告や、「密接交際者」として名前を公表される措置が規定され、罰則もあります。

老朽化によって破損、漏水した上歌別地区配水管の修繕費用です。

配水管破損漏水復旧工事

300万円

この条例は平成25年4月1日から施行されます。それに合わせ、これまでの公共施設暴力団排除条例（平成8年条例第20号）は廃止となります。

現在町内の配水管の総延長は11.6kmで老朽化が進み、うち耐震効果のある铸铁管での敷設は11kmほどです。

漁業監視レーダー修繕料

383万円

昨年5月と9月、計3回落雷被害に遭った岬地区漁場管理レーダーの修繕料です。

ふれあいの丘団地修繕料

310万円

昨年11月27日に発生した暴風被害の屋根防水層の修繕にかかる経費です。

私立幼稚園就園奨励補助金

11万円

当初予算として300万を計上していましたが交付額増となった為の追加補正です。

臨床検査技師募集広告料

54万円

この補助金は国が3分の1を負担するもので、現在町内の30世帯が利用しています。無料広告での反応がないことから有料広告に切り替えたいので募集期間は3か月です。

議件番号	議 件 名
報告第6号	定例出納検査の結果報告
報告第7号	合同所管事務長さの結果報告
承認第14号	専決処分承認（平成24年度えりも町簡易水道特別会計予算の補正第2号）
承認第15号	専決処分承認（平成24年度えりも町一般会計予算の補正第6号）
議案第14号	えりも町暴力団の排除の推進に関する条例
議案第15号	えりも町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例
議案第16号	えりも町居宅介護支援事業所条例の一部を改正する条例
議案第17号	平成24年度えりも町一般会計予算の補正（第7号）
議案第18号	平成24年度えりも町国民健康保険特別会計予算の補正（第3号）
議案第19号	平成24年度えりも町簡易水道特別会計予算の補正（第3号）
議案第20号	平成24年度えりも町診療所特別会計予算の補正（第3号）
議案第21号	平成24年度えりも町下水道特別会計予算の補正（第2号）
議案第22号	平成24年度えりも町介護保険特別会計予算の補正（第2号）
議案第23号	新たに生じた土地の確認
議案第24号	えりも町の字の区域の変更
諮問第2号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めること
承認第16号	所管事務調査

一般質問

高松亮裕議員



災害対策

大規模停電時の対応について

問

大規模停電時の防災計画の策定は。

答

北電と協議の上、見直しを進めている。

問 高松議員 平成24年11月、登別市で、暴風雪による4日間におわたる大停電が起きました。寒く不安な夜を、自宅で過ごすを得なかつた住民が数多くいたとの報道があります。

これは、市役所が北電との情報の共有ができず、初動態勢が遅れ、その後、避難所を開設したものの、住民に対する情報の提供が遅れたこと、周知が不十分であったことなどを反省点として挙げています。これらの反省から、

①停電時、役場機能は維持できるのか。
②停電時、防災無線は機能するののか。

③役場機能が失われた場合の対応は。
④防災無線が機能しない場合、住民への情報提供は。
⑤避難所開設時の照明や暖房は。
⑥大規模停電時の防災計画の策定は。

答 企画課長 ①役場庁舎内に発電機を備えてあり、概ね、役場機能の維持は可能です。②防災無線は、24〜72時間、蓄電池がもちますが、放送回数によって対応時間は変わってきます。③北電浦河営業所の移動発電車を配置し、役場機能を維持しますが、通行止めの場合

も想定し、町内からの調達も考えていきます。④11月より、登録・配信をしている防災情報メールでの情報提供や、消防や町の公報車により、また各自治会との連携により、住民への迅速な情報の提供を図ります。⑤暖房については、本年度、5か所の避難所に設置しており、照明については、黒地区に、発電機2台を設置しています。その他の避難所については、年次計画を立て随時、整備をしていきます。



役場地下の発電機

⑥この度の事例もあり、大規模停電時の対応・対策について、北電との協議を行いながら、現在、見直しを進めている、地域防災計画の中に網羅していきたい。

災害対策

防災ラジオの普及について

問

安価な防災ラジオを導入できないか。

答

通信方式が異なるため受信できない。

問

高松議員 防災無線が聞こえない、個別受信機を整備してほしい、という声は町民からよく聞かれます。当町では、個別受信機が1台5万円以上することから、財政負担が大きく、その対応に苦慮しているのとこの

これは、防災無線から緊急情報を発信した際に、ラジオ電波を利用し、自動的に受信して、情報をお知らせする専用受信機です。普段は、普通のラジオとして、特

に停電時には、テレビに代わる情報源として必要なものになります。そして、必要なら、安いの、無償で配布している自治体もあれば、1000円〜2000円で有償配布している自治体もあります。

答

企画課長 防災ラジオとは、アナログ無線と接続できるように作られております。当町の防災無線は、すでにデジタル化されており、防災ラジオでは受信できません。

高松議員 大地震や大津波が予測されるなか、緊急情報を迅速に全戸に知らせることは、重要な課題です。防災目的で、ラジオ電波の免許を取得して防災ラジオを導入した自治体もあります。アナログとデジタルの併用はできないのか、財政負担はどのくらいなのか、補助制度はないのかなど、導入した自治体のケースをよく調査していただきたい。また、当町と同様な自治体とよく連携をとり、関係機関への要望を積極的に行って



静岡県富士市で配布された防災ラジオ

手塚裕警議員



災害対策

消防救急無線のデジタル化について

問

デジタル化により災害対応力は向上するか。

答

各分団への簡易無線機の配備を計画している。

問

手塚議員 消防救急無線については、年度は実施設計、26・27年度は実設計、28年度は運用開始は平成28年5月31日までとする。無線の運用開始は平成28年4月1日を予定して、電波法関係審査基準の改正が行われ、これにより日高東部消防組合もデジタル通信方式への変更を余儀なくされている。①現段階の進捗状況は。②デジタル化のメリットは。③デジタル化の機会に消防団幹部へのデジタルトランシーバーの支給等、災害対応力向上の取り組みは取られるのか。

答

大西副町長 このデジタル化整備事業は4か年を予定して、本年度分として既に基

るため、現在のアナログと何から遜色ないものとなっております。また、今回のデジタル化にあわせ、各分団の消防車全てに移動無線局を設置すると共に、各分団にアナログトランシーバー型の簡易



無線機を3台ずつ配備する計画です。この簡易無線機は災害時における消防団員相互の情報収集や、安全確保の観点から必要な装備であり、災害対応力の向上に役立つものであります。

災害対策

想定外の災害対策について

問

防災のシミュレーション等は行っているか。

答

災害図上訓練(DIG)等を実施していく。

問

手塚議員 最近、室蘭の真冬の停電、トンネル崩落事故や風害など、えりも町民にとつて他人事でない想定外の災害が続出している。①想定外の災害に対応する。②通行止め、暴風雪、大規模停電が同時に発生し、それが3日間にわたると仮定した場合、現段階で行政としてどの程度の対応が可能か。

答

企画課長 想定外の災害対応については災害図上訓練等

(関連記事10P)



地域や学校で実施してきたところであり、町職員間での対応・対策は今後、新たな

大坂庄吉議員



除雪対策

高齢者身体障害者への除雪対策について

問

ボランティアの除雪サービスをつくれぬか。

答

地域の助け合い等で補っていただきたい。

問

大坂議員 除雪は健康な方にとつても大変な労力を要するものでありますので、高齢者身体障害者にとつては苦痛なことと思います。除雪サービスを行政の一端として行うことは理想ではありませんが、ボランティアによる除雪サービスの取り組みについて提言いたします。

答

保健福祉課長

65

④ボランティアを募集して除雪の支援をすることについて。

①現在高齢者1人2人暮らしの世帯数の状況はどうなっているのか。

②除雪に困ったとして相談の問い合わせがあったかどうか。

③行政として弱者高齢者への除雪対応についてはどのような考えでしょうか。

昨年3件ほど除雪に関して保健福祉課で対応しました。

行政として除雪を丸ごと引き受けることは難しいと

考えております。担当としては、地域の助け合いというもので何とか補っていた

だけないかとの思いであります。できれば元気な高齢者のみなさんによる事業団や、NPO団体などが組織され、きめ細かく生活支援を行える体制が町内で構築できれば一番いいのだろうと考えております。



したが、継続した活動につながっていない。福祉ボランティアを募集しても、実現性は低いのではないかと考えています。

上野勝廣議員



行政改革

町政の執行について

問

行財政運営の自己評価と展望は。

答

成果は上がっているが道半ばである。

問

上野議員 岩本町政も7年半が経過したところであります

が、その間、平成の大合併という地方行政にとって大変な変動を乗り越えられ2期目においては、「透明公正な町政執行」「町民に対して誠実であること」「行政と町民の対話と協働」の

3点を基本姿勢として様々な施策を迅速に行ってきた事に敬意を表するところであります。そこで町政の執行について2点お伺いいたします。①町の行財政の運営について、自らどう評価しているか。②今後どのような町政の執行に当たって

いこうと考えているか。

答

岩本町長 私は、

平成17年6月、長い間えりも町の舵取り役として、9期半ばまで町政を担った佐々木隆人前町長の退任を受け、5代目えりも町長に就任することになりました。

2期を通じて「困難を克服する町政」の実現を目指すことを最優先に町政運営に努めてまいりました。職員に対しては自分の利益を追求するのではなく、町民に利益を還元するとの思いで汗をかいて、ことに当たって欲しいと強く言い聞かせてまいりました。

そして、行財政運営の規律と効率化に真剣に取り組むことに全力を傾注いたし、自身を含めた給料の削減、一括民間委託による経費削減、地方債残高の削減、積立金残高の増加、町内の雇用を守ることを主眼とする必要に応じたインフラ整備等、安心・安全なまちづくりは、自然と共生した生活環境の確保であり、その現況と課題を的確に分析するとともに、主要施策を定め、その実現に努めてきたところであります。今後とも消防無線のデジタ

ル化、日高東部衛生組合のし尿処理施設の整備、庶野漁港における衛生管理、地域防災の検討による整備等々、急がれる諸問題はもとより、新たな医療体制の検討や福祉の充実、災害に強いまちづくりにも積極的に取り組んでまいります。

これからも自助・共助・公助を基本に、町民一人一人が主体となって力と知恵を出し合い、小さくても個性が光る自立したまちづくりにまい進します。

私自身に向け、後援会等から3期目出馬の要請が強く出されたところですが、山積する諸課題解決には道半ばの思いがあり、幸い健康にも恵まれていることも考え合わせ、出馬の決意をいたしました。残る情熱の全てを注ぎ、誤りのない町政の礎を築き、安心して引き継げる任期の4年間でありたいとの思いを申し上げ、ご答弁に代えさせていただきます。



馬出町長選挙へ意欲を燃やす
馬出町長 岩本

石川昭彦議員



学校教育 学校教育について

新教育長としての考えを伺いたい。

答 全ての力をえりもの教育のために使っていく。

問

石川議員 川上教育長に4点について質問を致します。

①教育とは誰のために、何のためにされるものと考えているか。

②全国的問題となっている「いじめ」をなくすために私達はどのように行動すべきか。

③学力向上のために何が必要と思われるか。

④えりも町に住んでみての感想があれば伺いたい。

答

川上教育長 教育とは一人一人の人格の完成を目的とし、児童生徒が自ら判断し行動できる知力、豊かな心、健

やかなる体、いわゆる知徳体の調和が身につく教育がなされなければならないと考えております。いじめについてはその発見に教職員だけでは限界があり、PTAや地域の皆さんと学校が連携を図りながら、見守りや声掛け運動を推進するなどして、いじめの防止、早期発見に努めて参りたい。学力の向上については指導に当たる先生方の授業力の向上を図ることと、家庭学習を含めた生活習慣の改善を車の両輪と位置づけ、学校・家庭・地域が一体となつて進めることが必要と考えております。

私の教員生活のスタートが当町目黒であり、えりも町を「第二の故郷」と思っており特別な思いがあります。えりもには古き良き地域文化が今も受け継がれており、子ども達は素直で礼儀正しいと感じております。今後は学ぶことの大切さや、切磋琢磨する姿勢をもつて欲しいと思っております。今後は私の持てる総ての力をえりもの教育のために使つて参りますのでよろしくお願い致します。

農業振興

人・農地プランについて



(関連記事10P)

問

人・農地プランの早期策定を。

答

平成25年度中には策定できるよう努力する。

問

石川議員 北海道の市町村の約6割がすでにこのプランを作成済みとなっているが、

えりも町はどう進めるつもりか。人・農地プランは新規就農支援や、認定農業者向けスーパール資金の無利子化の要件となる他、農地

答

産業振興課長 プランの内容や事業については把握しております、平成25年度中には策定できるように努力して参りたい。

集積の条件になるので早期作成が望ましいのでは。

地域交通

国道の通行止め 雨量基準について

問

通行止め基準の見直しを。

答

早期見直しを開発に強く働きかける。

問

石川議員 目黒地区の住民は降雨のため頻繁に国道が通行止めとなり、通勤・通学・通院などに度々支障をきたしている。現在80ミリで通行止めになっているが、トンネルもかなり完成してきており、せめて類似側と同じ100ミリの基準に出来ないか。開発に対してはどのように働きかけをしているか。

答

企画課長 えりも・広尾間では「えりも黄金トンネルと目黒トンネルがすでに完成しており、平成27年には防災工事が完成する予定であります。その後現地調査等を経て基準を考えると開発から回答を得ている。町としては、まず庶野・目黒間の基準について早期に見直

すように強く働きかけを行って参りたいと思っておりますのでご理解をいただきます。

住宅政策

公営住宅入居者の 住み替えについて

問

公営住宅の効率的な運用を。

答

住替えの強制は難しいが意向調査を実施する。

問

石川議員 本町の公営住宅には入居希望者が多く、待っている方が多数いると聞いている。公営住宅の本来の目的からして一人でも多くの人に住んで欲しいと願うものである。しかし現在は単独世帯がかなりの数になり、必

ずしも効率的に運用されていないのではないかと。単身者の住宅を整備して、より効率的な運用を図るべきではないか。

答

建設水道課技術長

82戸のうち23戸が単独世帯、その中で11人の方



防災

空き家対策について

問

危険な空き家の強制撤去を。

答

現時点では難しい。関係者と協議を続ける。

問

石川議員 町内でも空き家が目立つようになり、人口減少と共に更に増える事が予想されます。強風で近隣に被害が出たり、無人のはずの建物から出火するなどの事例も出ていることから、長年管理されているいな

答

企画課長 空き家が景観や防災上問題であることは認識しておりますが、条例を制定する事については、個人の資産に自治体がどこまで関与すべきか明らかになっていないことや、財政上多額の負担があるので現時点は難しいと考えます。当面は事案毎に道義的、人道的な観点から関係者と協議を続けたいと考えております。

い建物の持ち主に對して勧告や命令場合によっては代執行が出来るように条例を整備すべきではないか。



所管事務調査

平成24年
11月1日実施

議長 渡部 泰	総務文教常任委員 川村 一治	委員長 石川 正男	副委員長 高松 昭彦	産業民生常任委員 吉田 和正	委員長 大坂 庄吉	副委員長 上野 勝廣	成田 一人	手塚 裕警
------------	-------------------	--------------	---------------	-------------------	--------------	---------------	-------	-------

風の館

入館料下げ後の 入館状況について

本施設は、平成9年の開館から14年が経過し、更新できない機器や撤去した展示物があること、入館料が高いという来館者からの指摘が多く聞かれる現状などを踏まえ、昨年10月に入館料を改正（大人500円を300円、子ども300円を200円など）したものである。

入館料改正後、本年4月から10月までの入館者数は、昨年同期比で3838名増加しており、館内の売



店収入なども昨年を上回っているようであるが、担当課としては、まだ料金改正したことを知らないリピーターも多く、子供だけを入館させ大人は外で待っているという姿も見受けられ、PR活動に課題があると認識しているようであることから、今後の周知活動の徹底について努力願いたい。

廃棄物処理

一般廃棄物 処理計画について

本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に定める長期計画に位置づけられる15年に一度の計画で、「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理施設基本計画」の2本立てで構成されている。

まず、ごみ処理について「現状」「方向性」「取り組み」等について説明を受けた。

当町の一人1日当たりのごみ総排出量は、全国、全道に比べ十分少なく、リサイクル率も大きく上回っているが、紙製包装容器、乾電池、蛍光管の分別収集が行われておらず、今後これらの分別検討が課題となっている。

最終処分場は、現在の埋立量が計画値よりも少なく、稼働から7年間で埋立容量の約1割程度であるため、埋設可能期間の15年間で大きく上回る状況にあるが、清掃センター（焼却施設）は稼働から20年が経過し、できるだけ長く使用するための取り組みが求められている。

今後、新たな施設を単独で整備するには、多額の経費を伴い難しく思われ、現有施設の性能を維持するための適正な点検・補修を行いながら、施設の長寿命化を検証するとともに、広域的なごみ処理による効率的かつ適正な処理体制の確立に向け、日高管内の体制を少しずつ整えていくよう強く望むものである。

続いて、生活排水について「現状」「理念」「目標」「し尿・汚泥処理」について説明を受けた。

平成22年度における合併浄化槽を含む生活排水処理率は43・3%、下水道普及率は46・4%、水洗化率は71・9%となっており、生活排水処理の目標値は、平成22年度実績43・3%を平成38年度に66・1%と設定している。

当町のし尿及び浄化槽汚泥は、全量を日高東部衛生組合のし尿処理施設で処理しているが、昭和42年竣工で老朽化が進んでいる。

今後、日高東部衛生組合及び構成3町でし尿処理・浄化槽汚泥処理方針について協議し、新たな処理体制の構築



日高東部衛生組合衛生センター（幌別）



えりも町清掃センター

12月定例議会と 平成24年を振り返って

総務文教常任委員長

川村 一治



新年になって早くも1か月が過ぎました。皆様に於かれましては日々慌ただしくお過ごしのことと思います。

さて、12月定例議会も町長の一般行政報告、教育長の教育行政報告に続き、一般質問、合同所管事務調査結果報告、予算の補正、人事案件等をすべて原案通り可決し閉会致しました。今定例議会から初登場の新教育長川上氏の一般質問に対する答弁には何か新しい風が吹きそうな情熱をかいま見ることができました。教育全般はもとより児童生徒の個々の学力の底上げを期待するものであります。

10月22日、23日の両日、横浜国立大学名誉教授、宮脇昭先生による講演会、植樹祭が町民体育館、百人浜国有林内を会場に行われました。初日のスライドを使用した講演

会での最後の挨拶で「私はまだたった84歳、今後も計画的に活動を続けていきます」と言う言葉に並々ならぬ決意と強い精神力を感じ感動を覚えました。翌日の植樹祭はあいにくの悪天候にもかかわらず、児童・町民約220名が参加し、先生の指導のもと9種類1850本の苗木を植樹しました。話ばかりではなく自ら率先して実行する先生のエネルギーシユな行動力、形式ではなく実質を重んじる強い気持ち伝わってきた。本当に感服させられました。先生の益々のご活躍を祈念する次第です。

11月29日に第3回子ども議会が小・中・高総勢15名の参加のもと議会議場で開催されました。色々な質問が出されましたが、それぞれの立場での質問内容に自分も感心しました。又、町政に関心を持つてもらおうという点からも非常に有意義なことだと思えます。次回開催に向けて検討しなければいけません。えりも町の将来を担う子ども達のために。

結びになりますが、今年も皆様にとりまして実り多い年となりますようご祈念申し上げます。

国民健康保険

国民健康保険の 運営状況について

当町の平成22年度における一人当たり医療費の額は29万8968円(管内第4位)で、入院と歯科に係る医療費が同規模市町村に比べて高い傾向にあり、総体の医療費を引き上げている要因となつていける。引き続き疾病の予防、早期発見、早期治療に向け、特定健診等各種検診事業の推進について努めていた

また、一人当たり保険税の額は12万1638円で、管内は2位である。この数値を個人保険税が比較すると高い低いと

内が一番高くなつてきているが、この額を抑えるためには、税率を下げ、医療費が伸びるのを防ぐ必要がある。赤字のまま決算している市町

国保医療費順位 (平成23年5月診療分)

順位	疾病名	医療費(円)
1位	糖尿病	4,896,410
2位	歯周疾患	3,177,110
3位	悪性リンパ腫	3,108,510
4位	高血圧性疾患	2,857,610
5位	消化器系疾患	2,471,880
6位	神経系疾患	2,448,110
7位	腎不全	1,710,770
8位	悪性新生物	1,552,960
9位	骨折	1,388,400
10位	損傷	1,066,500

津波対策

海岸整備事業について

施工総延長(1工区は4工区)は592.68mで、既設のかさ上げに伴い旧護岸も補強され、前回と同程度の津波には耐えられる防災施設となったが、とりわけ避難対策についての充実が図られ、津波から避難する時間を少しでも長く確保するための施設として大いに期待できるものである。

本事業は、平成23年3月11日の津波により、新浜海岸地区で多くの住宅及び倉庫等が被害にあったことを受け、平成24年3月20日から同年11月30日までの工期で、従来の護岸の高さより1.2m程度のかさ上げ改良を実施したものである。

今後においては、計画的な維持管理を望むものである。



子供議会

11月29日、第3回子供議会が開催され、15名の子供議員による一般質問が行われました。

- 「国道の安全対策について」 谷家大翔（笛舞小5年）
- 「街灯の設置について」 中野桃子（えりも小6年）
- 「通学路の安全対策について」 金沢晃汰（東洋小6年）
- 「病院の施設について」 佐藤詩音（えりも岬小6年）
- 「公園や遊具の設置について」 安田優（庶野小6年）
- 「防災無線について」 大坂陽（えりも中1年）
- 「町内の歩道について」 淡路楓（えりも中2年）
- 「大津波対策について」 沼舘星太（えりも中2年）
- 「冬道の安全対策について」 池田峻悟（えりも中2年）
- 「観光対策について」 洪田勇司（えりも中2年）
- 「熊対策について」 川崎悠太郎（えりも高1年）
- 「町の景観について」 東山伶奈（えりも高1年）
- 「通学路のミラー設置について」 小山内愛美（えりも高2年）
- 「町外への生徒募集について」 芳賀智子（えりも高2年）
- 「避難所の設備について」 野阪優里（えりも高2年）

この人に聞く

えりも町教育長

川上松美



北海道様似町出身、北海道教育大学釧路分校卒。家族構成は妻、娘3人の5人家族。趣味は溪流釣りやウォーキング。好きな食べ物は魚類。座右の銘は、「己の欲せざることを、他人に施すことなかれ」尊敬する人は父。

笹谷 教師になったきっかけは？

川上 父が幼いころから「教育は素晴らしい職業だよ」といつも説いていたことから。

笹谷 教育長になって望むことは？

川上 第一は「えりものために尽力したい」という思い。第二に「えりもの教育が、地域の方々や保護者の皆さんの信頼と理解、協力の中で、どんどん充実し発展していく」という姿。第三に「知・徳・体の調和のある教育」を進めること。

笹谷 先生方に望むことは？

川上 現在の姿や実践に自信を持ち、胸を張って「えりもの教育」を今後も力強く実践して行ってほしい。笹谷 これからのえりも町の学校教育への希望は？

川上 えりもは、全国区のネームバリューである。その名を、教育でも、漁業の町で町民一体となって進められることが自負できる学校、町でありたい。

笹谷 えりも町をどう見ているか？

川上 何においても、変化の激しい世の中であるが、えりも町にはまだ、心の文化が残っている。失うことなく息づいてほしい。また、自然がいつぱいの漁業の町である。冬の季節は特に厳しいが、そこには力強く働く厳しさに耐え生き抜く町民の姿がある。

編集後記

町民の皆様、寒さ厳しい中いかがお過ごしでしょうか。今年最初の議会だよりを発行するために今回もまた、広報委員の議員さんには走り回っていただきました。取材、撮影、執筆、編集、校正と議員だけで作成している議会広報は全道、全国でも数少ない広報誌です。

限られた紙面の中により多くの情報を分かりやすく、出来るだけ興味を持っていただけるようにと、毎回頭を悩ませながらの作業です。

この時期に毎年思う事があります。北海道の冬がせめて1か月短ければと…。寒さや雪を逆手にした取り組みも最近は随分行われていきますがしかし、春よ来い。早く来い。

「冬は必ず春となる、いまだ昔よりきかず・みず冬の秋とかへれる事を。」と古書にある。苦しい人への応援メッセージと読んだ。

(石川)

議会の動き

- 11月1日 合同所管事務調査
- 11月29日 子供議会
- 12月13日 議会運営委員会
- 12月20日 第4回定例会
- 12月21日 議会広報特別委員会
- 12月25日 日高東部消防組合議会
日高東部衛生組合
- 1月13日 議会広報特別委員会
- 1月21日 議会広報特別委員会

防災無線聞こえますか？

防災情報が携帯電話にメールで届くようになりました！
登録はQRコードにアクセス。
または下記アドレスに空メールを送信してください。
t-erimo@sg-m.jp

委員長	石川昭彦
副委員長	高松亮裕
委員	大塚裕喜
委員	笹谷広
委員	手塚裕

議会広報特別委員会委員